



# MESSAGE NOTES

## 主にあって強められなさい

エペソ人への手紙 6:10-20

ロイド フラハティ

### 1. 神の武具を身につける

私たちは格闘しているのでしょうか？私たちは人と戦っているではありません。

エペソ人への手紙 6章 10～13 節

10 終わりに言います。主にあって、その大能の力によって強められなさい。11 悪魔の策略に対して堅く立つことができるように、神のすべての武具を身に着けなさい。12 私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配、力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいるもろもろの悪霊に対するものです。13 ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、一切を成し遂げて堅く立つことができるように、神のすべての武具を取りなさい。

### 2. 真理はあなたの堅い土台

真理がなければ、私たちはしっかりと立ちできません。

エペソ人への手紙 6章 14～17 節

14 そして、堅く立ちなさい。腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、15 足には平和の福音の備えをはきなさい。16 これらすべての上に、信仰の盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢をすべて消すことができます。17 救いのかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち神のことばを取りなさい。

### 3. 祈り、目を覚ましていなさい

祈ることは、父なる神と常に開かれたコミュニケーションをとることです。

エペソ人への手紙 6章 18～20 節

18 あらゆる祈りと願いによって、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのために、目を覚ましていて、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くして祈りなさい。19 また、私のためにも、私が口を開くときに語るべきことばが与えられて、福音の奥義を大胆に知らせることができるように、祈ってください。20 私はこの福音のために、鎖につながれながらも使節の務めを果たしています。宣べ伝える際、語るべきことを大胆に語れるように、祈ってください。

**まとめ：**主にあって強くあるということは、神様が私たちと共におられることに気づき、意識することです。この認識は、私たちが神様を自分の人生から切り離すのではなく、あらゆる状況、あらゆる会話に神様を迎え入れる助けとなります。真理から始めることで、私たちはしっかりと立つことができます。